

【9日目】私が神のために働くのか、
それとも神が私を通して働かれるのか？



【テーマ聖句】

「わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」
(ガラテヤの信徒への手紙 2 章 19、20 節)

2021 年 1 月 14 日(木)

私たちは、よいわざのために造られた

オーストリア出身のゾルトという名の神学生は落胆していました。ケニアで伝道講演会を開くように招かれたのですが、最初の週はわずか 30 人しか出席しませんでした。彼はもっと集まると期待していたのです。失望した彼は、自分の部屋に入って鍵を閉め、それから 4 時間祈り続けました。失望をすべて神に打ち明け、自分を完全に委ね、天からの答えを待ちました。不安と疑いはまだ残っていましたが、ゾルトは神が祈りを聞き届けてくださったことを確信しました。その晩の集会には、なんと 600 人もの人々が集まったのです！ その翌日には 700 人、そして翌々日には 1,000 人が集まりました。この恵みあふれる伝道講演会で、39 名の人々がバプテスマを受けたのでした。

私たちが、神の働きのために何か大きなことを試みようとするときにはいつでも、極めて重要な問いに直面します。それは「私が、人間の力で**神のために働く**のだろうか？ それとも神が、**私を通して**全能の力をお表しになるのだろうか？」という問いです。

聖書はこの神秘、すなわち完全な存在であられる神が、不完全な人間を通して働くということについて述べています。「なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。」(エフェソの信徒への手紙 2 章 10 節) この聖句は、二つの「働き」について述べています。第一に、神は「キリスト・イエスにおいて(私たちを)造られた」ということです。これは、神がキリストにあって私たちに新しい命をお与えになったということです。さらに神は、私たちのうちに第二の働きを行われます。それは主が、私たちのためにあらかじめ備えられた「善い業」を行わせてくださるということです。私たちは、「真の働き人」となるために、どのように生きるべきなのでしょう？

1、聖霊によって生きる

「聖霊を受け取るまで、彼らは、神が彼らを通して何をなさることができるのか、認識できない。」
(『あなた方は、力を受ける』 286 ページ 英文)

2、すべてをキリストに委ねて生きる

「自分自身のすべてを神にささげている者は、神のみ手によって導かれる。・・・天来の知恵に関する教えを大事にする時、神聖な任務が彼にゆだねられる。」(『患難から栄光へ』上巻 306、307 ページ)

神が私たちのために用意された働きを成し遂げるにより、私たちは信仰によって成長し、私たちの霊的、知的能力は発達するのです。失敗さえも価値ある教訓を与えます。なぜなら、神が中心でなければ、いかなる人間の努力も成功しないことを学ぶからです。「みことばを説くことは、聖霊のたえまない臨在と助けがなければ何の効果もない。」(『各時代の希望』 下巻 157 ページ)

武力によらず、力によらず

説教者が神の霊によって強められなければならないように、霊的な書物の著者も同じように強められなければなりません。「もし、神の救いが紙に書く者と共にあるなら、同じ霊が読者にも感じられる。・・・しかし、書き手が完全に神の栄光のために生きていない時、完全に主に献身していない時、天使たちは、悲しみのうちに欠乏を感じる。彼らは、背を向け、読者に印象を与えない。なぜなら、神と神の霊がそこにはないからである。言葉はよいかもしれないが、神の霊の温かい影響に欠けている。」(『EGW 手紙と原稿』 第 1 巻 532 ページ 英文)

この原則はすべての働き — 伝道、教育、奉仕活動の指導、子どもたちの訓練、その他の働き — において

真実です。「みわざを成功させるものは、人々から出た力ではない。みわざを完成させるものは、人間と共に働く天使たちの力である。」(『クリスチャンの奉仕』『希望への光ークリスチャン生活編』1083 ページ)

イエス・キリストでさえ、毎日天の父とのつながりを必要としていたのです。イエスは弟子たちに言いました。「わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。」(ヨハネによる福音書 14 章 10 節)

使徒パウロにも注目してみましょう。彼はあれほどの大きな使命をどのように行うことができたのでしょうか？ パウロは言っています。「わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」(ガラテヤの信徒への手紙 2 章 19、20 節) パウロは自立をあきらめ、キリストに自分の人生を導いてもらおうと決心しました。彼は次のように説明しています。「キリストがわたしを通して働かれたこと以外は、あえて何も申しません。キリストは異邦人を神に従わせるために、わたしの言葉と行いを通して、また、しるしや奇跡の力、神の霊の力によって働かれました。」(ローマの信徒への手紙 15 章 18、19 節) 鍵はキリストの内にとどまることにあるのです。

主は今日も、目覚ましい業を行いたいと願っておられます。主の計画はいつも私たちの能力をはるかに超えています。キリストとの絶えざるつながりによって、私たちは用意された働きを実行することができるのです。主は今日、私たちを招いておられます。「わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。」(エレミヤ書 33 章 3 節)

【神の御言葉によって祈る】

人間の能力では、人間的な結果しか達成できません

「そして、モーセはエジプト人のあらゆる教育を受け、すばらしい話や行いをする者になりました。…モーセは、自分の手を通して神が兄弟たちを救おうとしておられることを、彼らが理解してくれると思いました。しかし、理解してくれませんでした。…(神が)エジプトの地でも紅海でも、また四十年の間、荒れ野でも、不思議な業としるしを行って人々を導き出しました。」(使徒言行録 7 章 22、25、36 節)

主よ、モーセが長い間羊飼いをした後にあなたに人生を委ねることができたように、私たちの人生も導いてください。聖霊の力によって生きるときに、あなたが私たちを通して、しるしや不思議を行ってくださいることを信じます。あなたが導かれるところに喜んでついて行けるように、私たちを助けてください。

私たちは、キリストにあって「善い業」のために造られました

「なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。」（エフェソの信徒への手紙 2 章 10 節）

主よ、私たちを、隣人の救いと祝福のための道具として造り変えてください。私たちは、福音の実現が次の問いの答えにあることを知っています。それは「私が、人間の力で神のために働くのか？ それとも神が、私を通して全能の力をお表しになるのか？」私たち自身の力では、あなたに完全に仕えることは不可能であることを悟らせてください。私たちを通して、あなたが働いてくださることに心から感謝いたします。私たちを器として、どうぞ祝福してください。

【更なる祈りの提案】

感謝と讃美： 具体的な祝福を感謝し、神の憐れみのゆえに讃美をささげましょう。

告白： 個人的な告白のために時間を取り、神の赦しのゆえに感謝をささげましょう。

願い： 私のチャレンジと決心のために、神様が知恵を与えてくださるように祈りましょう。

教会のために： 私たちの教会、地域の教会、世界中の教会の働きを神様が祝福してくださるように祈りましょう。

人々の必要のために： 教会員、家族、隣人の必要のために祈りましょう。

静かに耳を傾け、

応答しましょう： 神のみ声を聞くために静かな時間を過ごし、讃美と歌で応答しましょう。